

令和3年度
予算のはなし

2

一般会計は市の予算の中心。 最も大きな「おさいふ」です。

収入と支出のことを市の財政では「歳入」「歳出」と呼びます。より良い地域社会を実現するため、市民が納める税金などのお金をあらかじめ使い道を決め計画的に役立てる、それが予算です。なかでも一般会計予算は最も金額が大きく、幅広い分野を含んだものです。

歳入

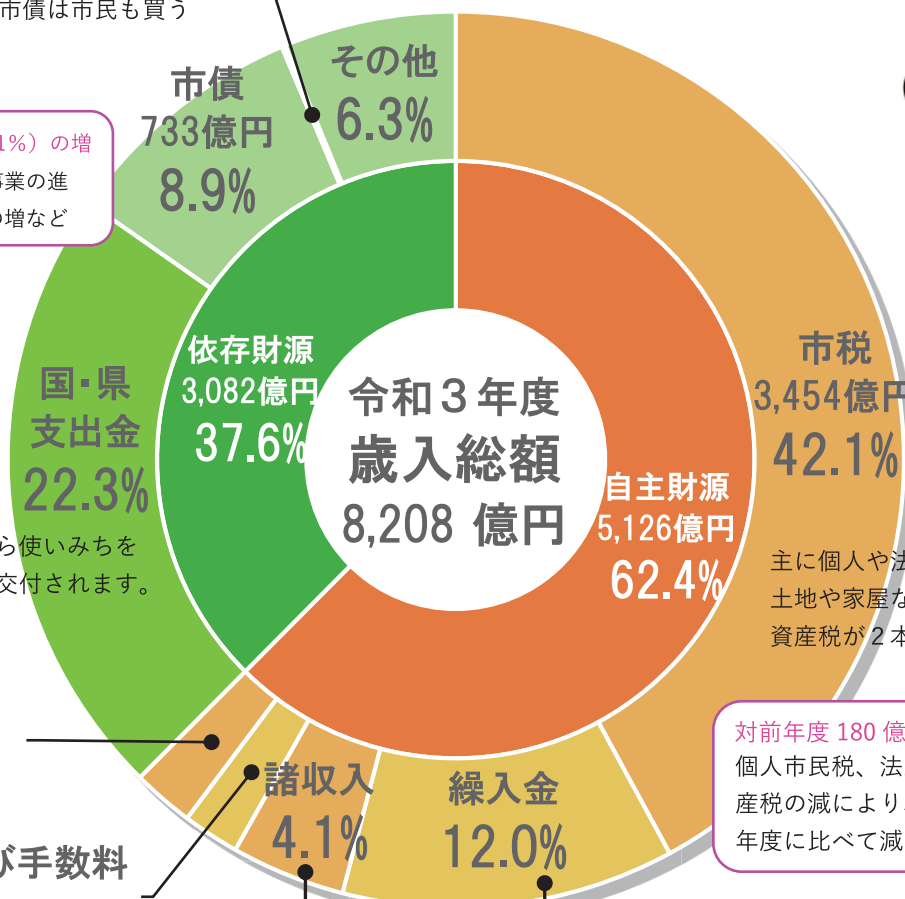
市の施設をつくるなどの目的で行う「市の借金」です。市債は市民も買うことができます。

関連記事➡P.19

対前年度 79 億円 (12.1%) の増
橋処理センター整備事業の進捗、臨時財政対策債の増など

地方交付税 0.1%

地域(地方自治体)ごとの税収の差を調整するために国から配分されるお金です。



私のお金が社会のために活かされるのですね!



国や県から使いみちを指定して交付されます。

主に個人や法人が納める市民税、土地や家屋などに課税される固定資産税が2本柱となっています。

対前年度 180 億円 (5.0%) の減
個人市民税、法人市民税、固定資産税の減により、市税全体では前年度に比べて減となる見込み

その他 2.2%

使用料及び手数料 2.0%

条例などで徴収できる使用料や手数料

宝くじや競輪、競馬などの収益金の一部は、皆さんの身近な生活に役立てられています。

関連記事➡P.22

基金(市の貯金)から取り崩すお金や、特別会計のおさいふから入ってくるお金などです。

ことばの解説②

自主財源と依存財源

「自主財源」は市が自主的に集めることのできるお金。この割合が高いほど自主的な運営がしやすくなると考えられます。一方「依存財源」は国や県の考え方を反映させ、決まった額を受け取るお金のことです。